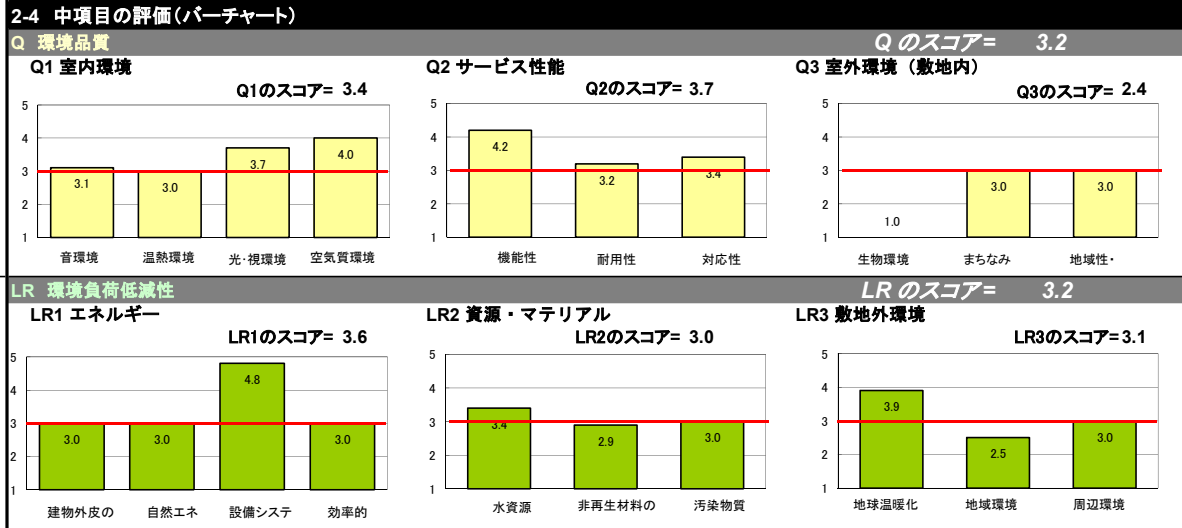
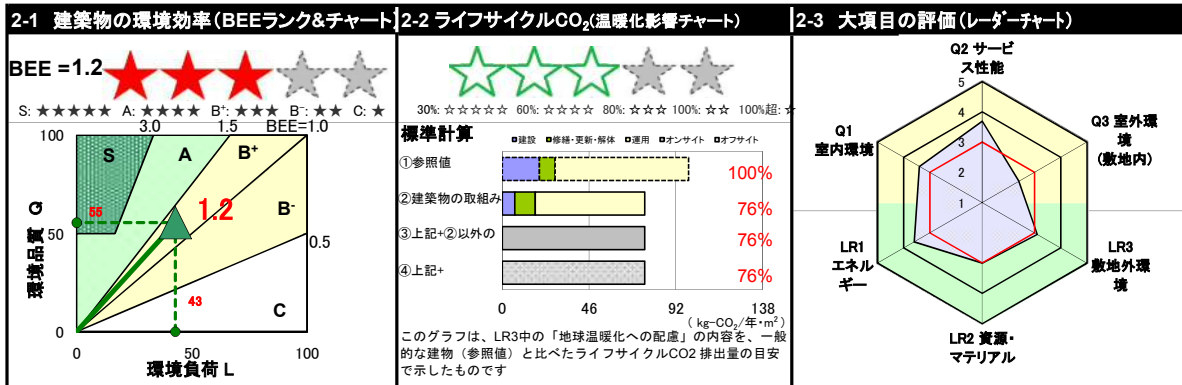


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	シティライフ豊橋デュアルコートイースト	階数	地上15階
建設地	豊橋市花田町字石塚68番1の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域・準防火地域	平均居住人員	178 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年6月1日
敷地面積	766 m ²	作成者	榑日伸設計事務所
建築面積	315 m ²	確認日	2017年6月1日
延床面積	4,079 m ²	確認者	榑日伸設計事務所



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">17.4 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														3.2	
Q1 室内環境														3.4	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.7	
3.1 昼光利用														2.6	
1 昼光率														1.8	
2 方位別開口														1.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														4.0	
4.1 発生源対策														4.2	
1 化学汚染物質														5.0	
4.2 換気														5.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
Q2 サービス性能														3.7	
1 機能性														4.2	
1.1 機能性・使いやすさ														3.4	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														5.0	
3 バリアフリー計画														5.0	
1.2 心理性・快適性														4.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														4.0	
3 内装計画														4.0	
1.3 維持管理														3.5	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.8	
1 躯体材料の耐用年数														5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														2.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

3 対応性・更新性					3.0	0.29	3.6	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり							4.2	4.2		0.50
1 階高のゆとり			全フロア階高3.01m					5.0		0.60
2 空間の形状・自由さ								3.0		0.40
3.2 荷重のゆとり								3.0		0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-		2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温暖環境の向上					3.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性										3.2
LR1 エネルギー						0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			住宅部:品確法等級3		3.0	0.33				3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.86		4.8	0.33				4.8
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価										-
4.1 モニタリング										-
4.2 運用管理体制										-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.0
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水			UB,キッチンの水栓に節湯器具・節水型トイレを設置		4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
2 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無										-
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63				2.9
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②			3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自			3.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	再生砕石		3.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68				-
1 消火剤										-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50				-
3 冷媒					3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境						0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値76%		3.9	0.33				3.9
2 地域環境への配慮					2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温暖環境悪化の改善					2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	1.00				-
2 振動		独自								-
3 悪臭										-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				-
1 風害の抑制					3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制										-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

シティライフ豊橋デュアルコートイースト

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:17.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 シティライフ豊橋デュアルニ

計画上の配慮事項	
総合	計画建物は、比較的に交通量の多い県道に面している為、1フロアの住戸数を少なく、15階建とし、プライバシーの確保に努めた。
Q1 室内環境	化学汚染物質の低減の為、F☆☆☆☆製品を全面的に採用した。
Q2 サービス性能	階高を3.01m確保し、快適性の向上を図った。
Q3 室外環境(敷地内)	歩車道分離の計画に努め、アプローチ部分には植栽を配置した。
LR1 エネルギー	消費一次エネルギーを基準値以下となるように配慮した。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材の使用を心がけた。
LR3 敷地外環境	周辺環境に配慮し、適切な離隔距離をとり、環境悪化の低減を図った。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。